TOREK 自然農法 ホットニュース

第 165 号　2012.1.25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

プリンで元気になった息子♪　埼玉県　峰広重男

去年の 8 月の初めごろより、息子が咳をするようになり、熱も少し出てきました。動きもにぶく、ミルクを飲んだ後に咳と一緒に吐き出してしまったり、離乳食ものどにつかえるのか、つらそうな感じでした。そのようなとき、母から弥生さんのプリンをもらい、息子に食べさせてみると、一度にペロリと 2 つも食べました。吐くこともなく、とてもおいしそうでした。その後順調に回復し、10 日くらいで良くなりました。それからプリンは大好物のひとつになり、とてもいい顔で食べているのを見ると、幸せな気持ちになります。

今回のことで、自然農法の食べ物の有り難さを実感しました。つい当たり前になりがちですが、本当に貴重な食物を頂けていることに感謝し、少しでも多くの人に伝えていかなくてはと思いました。

ジョリフィーユの出会い（その 1）　長野県　宮澤弥生

結婚と同時に東京から信州松本に移り住み、これからの時代を担う子供たちに安全なお菓子を食べてもらいたい！　自然農法のお知らせになる無施肥無農薬の食材でお菓子作りをしたい！　そんな思いを込め、ケーキ職人だった父の姿や、大好きだったお菓子の味を思い出し、お菓子作りを始めました。

7 年ほど前に、TOREK 農産展、頒布会などで販売に、と声をかけていただき、皆さんに食べていただくようになりました。その後、不思議なめぐり合わせで場所をお借りでき、4 年ほど前に設備を整え、公の認可を頂き、工房ジョリフィーユを立ち上げました。その後、多くの方のご協力を頂き現在に至っています。

そして昨年、ある女性が工房に宅配の牛乳の試飲を持ってこられました。ここは生活の場ではないので、牛乳をとることができない旨を伝え、お菓子を作るきっかけになった話などをしました。すると「主人が無施肥無農薬栽培をやっているので、そういう話、とても興味あります」とおっしゃるのです。

松本で、無施肥無農薬のお菓子を…と人に話すことはあっても、人から聞くことはないので、耳を疑いました。その方、久保田さんは岡田茂吉師の自然農法を本で学び、余計なお金と労力を使わず、安全で美味しいものが出来るのなら！　また 60 年以上前から誰かしらやっている農法だから間違いないだろうと、4 年前に隣の朝日村に来られ、農業を一から始め、無施肥でトマトを作っているとのことでした。初対面の久保田さんと自然農法や薬害の話で盛り上がり、まるで昔からの友人、もしくは TOREK 自然農法実施者と話しているようで、感激しました。久保田さんも、看板があるわけでもない私の工房になぜ来られたのだろうと喜んでいました。早速、4 月 9 日にある生産者の堀さん宅での勉強会にお誘いしました。「ぜひ、主人と子供も連れて行きます」と即答でした。

堀さんと久保田さん夫妻

4 月 9 日、久保田さんご一家と地域の皆様と学ぶことができました。ご主人も、自然農法創始者である岡田茂吉師の勉強や、堀さんはじめ生産者の方々と知り合え、とても有意義な時間だったようです。

久保田さんはハウスでミニトマトを生産しています。勉強会後、堀さんが久保田農園の視察に朝日村まで足を運んでくださいました。「僕たちは、肥料を入れないということが主ではなく、土を生かすことが主なんですよ」と、自然農法のこと、また、営農者としてやってこられた体験を話してくださいました。久保田さんも内に秘めた熱い思いをたくさん話していました。「自分は、作物を生産し出荷するだけでなく、この場所に多くの人に訪れてもらって、喜んでもらえる、癒しの場所になる農園を作りたい。安全で美味しい作物の良さを多くの方に知っていただける仕事をしたい」…（次号に続く）

自然農法 稲作の勝利！（その 1）　長野県　堀 政則

昨年平成 23 年、真の自然農法を追い求め、取り組む生産者、生産グループ全ての拠点にて、前年増しの増産、および高品質の報告を聞きました。宮城、栃木、千葉、神奈川、兵庫、熊本、福井、石川、新潟、群馬、長野、知る限り、このように全国どこも良いという報告を聞いたことはありません。

昨年の作況指数の第一次報告によると、全国的に平年並みと言われ、私ども長野北信地区でも 101 と平年並みとのことでした。しかし、周りの農家では、平年より悪いという話が次第に多くなり、しばらくして村の官報により、結果は悪化していると知りました。

当地木島平は、お米の品質では特 A 地区と高い評価を頂いていますが、今回は特 A として出荷できるお米が激減したとのことです。これは、収穫時におけるモミの総量は平年並みだが、品質が著しく悪化したということです。原因は天候不順としていますが、私どもの観点からしたら、気候変動についていけないほどの「稲の弱体化」によるのではないかと思います。確かに、春先の急激な高温と冷温の繰り返しや、長雨、日照不足、夏の高温と、今までにない環境であることは間違いありません。現場では、苗作り、田植え時期、水の駆け引きもテンヤワンヤとなっています。しかし、全国の自然農法実施田は、品質、量ともに良い報告の対照的なこと。まさに「自然農法の大勝利」と申し上げていいのではと思っています。

夏の新潟豪雨災害により、土砂や流木が流れた飯塚さんの田でも、前年を大きく上回る収量で、美味しいお米が実ったこと、栃木の五十嵐さんの田は猛暑にも高温障害にならず、収量は言うまでもなく、きわめて美味しく、鎌ヶ谷頒布会 5 周年で、おにぎりを頂き、その旨さ、食べた後もいつまでも残るさわやかな甘みに感激でした。

冨田さんの除草に取り組んできた報告や、森さんは自信と喜びにみなぎる顔で稲の様子を伝えてくれ、山下さんも、これからは目に見えない部分が大事になってくるのではと未来への夢を語り、震災に見舞われた宮城の菅原さんも、当初あまりのショックに作付の気持ちが起きない中、TOREK とつながり、収穫まで無事終えることができました。熊本の渡辺さんはじめ大勢の生産者も仲間となり、萩原さんの年々増収の報告、群馬の武井さんは 100 俵を目指すと宣言し、兵庫の畑さんからも喜びの声を聞き、五三会も誰もかも結果に喜び、真の自然農法に確信を抱き、希望に満ちていました。

ここに、先人の一つ一つの取り組みがいよいよ生長し、実を付け始めたように感じます。お会いすることもなかった大勢の方々からの、一度も絶たれることのない真の自然農法の受け継ぎが力を発揮しています。と同時に、いよいよ時期の迫ってきたことも、この結果を通して感じられます。

私の所でも、今までは見て見ぬ風の農家が「いい稲だ」「ここが一番色がいい」と例年になく言うので、今までだって悪くないのに、やけに「今年は良い、良い」と言うものだから、どうしたのだろうと思っていました。地主さんも「今年は飛びきり良い」と喜び、そのことにより、プロの農家に自然農法の話を伝える機会を多く頂きました。また、以前より交流している長野県の農業改良普及員の方にも観ていただき、無施肥でここまで出来るものかと驚かれ、毎年観てもらっているのに殊に昨年は感心の度合いが強かったようで、後日同僚の稲専任担当の普及員を田んぼに案内していました。普及員に感想を聞くと、信じられないような顔をしていました…（次号に続く）

お知らせ

自然農法頒布会	2 月 21 日（火）	鎌ヶ谷会場	11:00～	（売り切れ次第終了）
自然農法頒布会	2 月 26 日（日）	東中野会場	10:00～	（売り切れ次第終了）
自然農法勉強会	2 月 29 日（水）	別院講堂	午前の部 10:30～	午後の部 19:00～

無施肥無農薬栽培物の販売予定　2 月 4・10 日　於：伊都能売会館

生産者の方々が直接販売されます。　東京都八王子市長房町 57　042-665-6369

- きじま平自然農産：甘納豆、黒豆納豆、干し柿、きじま弁当
- 市川生産グループ：ほうじ茶、みかん
- 長柄山自然農園　：卵、しいたけ
- 中　島　農　園　：下仁田ネギ、ジャガイモ、ダイコン、フキノトウ
- ジョリフィーユ　：ショコラケーキ、マドレーヌココア、カスタードプリンほか（10 日はｷﾞﾌﾄｾｯﾄあり）

お問い合わせ先：編集部　針貝　FAX：03-3369-3324　e-mail：naturefarming@torek.jp
ＴＯＲＥＫ活動のホームページもご覧ください。　http://www.torek.jp